

<1年を振り返って>

このコーナーでは、各隊員の遠野に来るまでの経緯や現在の活動を紹介してきました。

今月は、平成28・29年に着任したメンバーに、
①この1年の成果②今後の抱負の2つを聞きました。

どぶろく プロジェクト



や え がしかいと
八重樫海人さん

32歳、材木町在住
盛岡市出身

①米作りからどぶろく造りまで1年間やりきったことです。②変化が大きい年になりそうなので、それを乗り切る体力をつけながら、遠野で生きていく基盤をつくりたいです。

デザイン プロジェクト



は し も と り ゚ こ
橋本亮子さん

38歳、六日町在住
茨城県出身

①デザインに関わったものを遠野の中で目にする機会が増え、嬉しく思っています。②デザインした商品を遠野の皆さんに広め、定着していけるように、さらに力を尽くしたいです。

魅力発信 プロジェクト



と み か わ が く
富川岳さん

32歳、宮守町在住
新潟県出身

①小学校の演劇などプロデュース。色々な面で地域の魅力を伝えられたと思います。②これまでの活動を通して、地域資源を生かした商品開発などにチャレンジしたいです。

起業支援・地域おこし



む ろ い ま い か
室井舞花さん

31歳、小友町在住
愛知県出身

①一日市通りにある拠点施設を中心に、「人と人が出会う場」の企画運営ができたことです。②引き続き、遠野に関わる交流・関係人口を増やしていく取り組みをしたいです。

低コスト住宅 プロジェクト



お ね の な お き
小関直さん

36歳、土淵町在住
北海道出身

①低コストでリフォームすることにチャレンジし、一つのモデルを作ることができました。②リフォームではなく、これまでになかった「低コストな家」を作りたいです。

多世代交流 プロジェクト



お い か わ し え
及川敏恵さん

37歳、綾織町在住
奥州市出身

①地域の方々と協働させていただく機会がふえ、より深い活動に繋がりました。②世代や考え方の違い越えて、人が出会い分かちあえる場を地域文化×文化芸術を通してつくりたいです。

ビール・ホップ プロジェクト



は か ま だ い す け
袴田大輔さん

31歳、早瀬町在住
青森県出身

①「遠野醸造TAPROOM」をオープンできたこと。少しずつですが認知度は高まってきました。②クラフトビールの多様性を知ってもらい、高品質でバラエティ豊かなビールを造りたいです。



お だ と も み
太田睦さん

60歳、中央通り在住
大阪府出身

①無事に遠野醸造TAPROOMを開業して1年間営業することができました。②もっともっと皆さまに美味しいと言ってもらえるようなビールを醸造していきたいです。



こ ん ど う ひ ろ か ず
近藤弘和さん

43歳、下組町在住
岡山県出身

①ホップ農地を借り、栽培から収穫まで本格的な農業に従事。ホップ収穫祭の運営にも携わりました。②活動地は盛岡に移りますが、引き続き遠野とのご縁を大切にしていきたいです。



た む ら じ ゅ ん ち
田村淳一さん

32歳、早瀬町在住
和歌山県出身

①ビールの里構想が徐々に具現化していき、一緒に取り組む仲間が増え、嬉しいです。②ホップとビールを楽しみに遠野を訪れる人が増えるよう、プロジェクトを形にしていきたいです。

レポート 2月の活動のトピックをお伝えします

▼東京開催の「岩手わかすフェス」に出展

岩手の人・モノ・コトが集結し、岩手とのつながりを深めるイベント「岩手わかすフェス」が東京・千代田区で開催され、ネクスト・コモンズも出展団体として参加しました。会場ではローカルベンチャー事業の取り組みを紹介しながら、参加者の方と交流を行いました。



▼インターンシッププログラムを受け入れ

花巻空港にも就航し、「地方と地方の懸け橋となる」ことを理念とするFDA(フジドリームエアラインズ)が行うインターンシッププログラムが実施され、ネクスト・コモンズが共同企画団体として受け入れをしました。全国から集まった大学生12人が3泊4日で市内に滞在し、隊員と共に市内でフィールドワークを行い、検証・聞き取りを行いました。



遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介
遠野で起業に挑戦中!
Vol.12

平成28年から市と(株)ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数名の、地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

遠野文化研究センターだより とおのじん ー其の10ー

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。

今月は、宮沢賢治の『風の又三郎』の誕生秘話についてです。

★筆者 菊池 弥生

遠野文化研究センター研究員。1954年、遠野市上郷町生まれ。元JICAケニア国立博物館専門家、元NPO法人少年ケニアの友理事など。現在は遠野の偉人や文化について研究している。



平成17(2006)年、市村合併による新遠野市の誕生に際し、宮沢賢治の花巻農学校の教え子であった(故人)沢里武治のご子息から、賢治ゆかりの資料が宮守ホールに寄贈されました。当時の遠野市立博物館長は寄贈された沢里宛の賢治書簡の一通について、「上郷小学校が『風の又三郎』のモデルの一つと裏付ける資料」という旨の解説をしました。これが新聞で報道され、上郷小学校が一躍脚光を浴びることになりました。

『風の又三郎』のモデルが上郷小学校というのは本当なのだろうか? 疑問を持った私は、2013年から調査を始めました。私の母校が上郷小学校だったこと、また私の上郷中学校在学時の校長先生が沢里武治だったことも研究のきっかけになりました。

宮沢賢治(1896-1933)は、花巻市出身の日本を代表する詩人・童話作家です。一方、賢治の愛弟子の沢里武治(1910-1990)は、遠野市内などの小中学校の教員として音楽を教え、上郷中学校長を最後に退職。晩年は大正琴の先生として活躍しました。花巻市出身の沢里は、花巻農学校に入学して賢治から1年間指導を受け、オルガンやバイオリンなど音楽の才能を期待されました。沢里は卒業後も賢治と交流を深め、生涯の師として尊敬していたのです。



賢治が調査した石灰岩(上郷町細越)

沢里宛の賢治書簡を調査すると、賢治は昭和6(1931)年8月、東北砕石工場で技師として働いていた時、上郷尋常高等小学校(現上郷小学校)の教員だった沢里に上郷の案内を依頼しました。上郷訪問の主な目的は、人造石原料(石灰岩など)の調査、『風の又三郎』執筆のために学校や子どもたちの雰囲気取材することでした。翌9月上旬、賢治は上郷の沢里を訪ね、上郷尋常高等小学校を訪問したと考えられます。

さらに調査を進めると、賢治が訪問した同校には、

沢里の勤務する本校のほかに五つの分教場があることが分かりました。私はこれらの分教場に目撃し、賢治書簡や『風野又三郎』(『風の又三郎』の初期形)生原稿などの文献資料を精査し、分教場跡の現地調査も行いました。その結果、賢治は、上郷尋常高等小学校本校のほかに、「細越分教場」でも複式授業の様子を取材した可能性が高いことが分かりました。つまり『風の又三郎』舞台のモデル校は、「細越分教場」ではないかという結論に至ったのです。また、これまで謎とされていた賢治の上郷での足取りとして、沓掛と細越周辺、佐比内で石灰岩の調査をしたことも判明しました。

私はこれらの研究成果を2月23日、遠野文化研究センター講座『風の又三郎』の学校を探して-沢里武治と宮沢賢治-と題して発表しました。『風の又三郎』の冒頭の「どっどど どどど」について、沢里は作曲できませんでしたが、賢治が沢里へ作曲を依頼した経緯を説明しました。参加者の中に沢里とお付き合いのあった元同僚の先生がおり、沢里による賢治の「どっ どどどど」という地から響いてくるような低く力強いリズムと旋律の再現、また、沢里がその作曲で悩んでいたという証言も得ることができました。この講座資料は博物館に置いてあります。ぜひ、皆さんのお考えも教えていただければと思います。



沢里武治

★講座のお知らせ

遠野文化研究センター講座

柳田國男が先生と慕った伊能嘉矩

『遠野物語』の著者・柳田國男が、「先生」と慕った遠野の人類学者・伊能嘉矩の関係について分かりやすく解説します。

◆日時 3月16日(土)10時~12時

◆場所 遠野市立図書館視聴覚ホール

◆講師 遠野文化研究センター運営委員 菊池 健氏

◆申込 開催日の前日までに電話にて受付

★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp